

明和町内の縄文遺跡

縄文時代の遺跡は旧石器時代に比べて丘陵地から平地での定住となりました。その平地でも遺跡の位置をみると、川沿いにある台地、微高地上に集中します。これは水害の心配のない、安定した生活が可能な場所を選んでいたからといえます。現在の集落と比べてみると、遺跡が分布する台地上には集落があり、低い土地は田んぼや畑が広がっています。今も昔も生活の場は決まった場所に作られるのです。

にしで
(西出遺跡)
はらにがわ
ちゅうせきへいや
祓川右岸の沖積平野の微高地に位置する縄文時代から鎌倉時代にかけての遺跡です。三重県埋蔵文化財センターによる調査では縄文時代の明確な遺構は確認されませんでしたが、人面土板が出土しました。この人面土板は当時の祭祀について知る手がかりとなる貴重な資料です。



こんこうさか
(金剛坂遺跡)
はらいがわ
かかんたんきゅう
金剛坂遺跡は祓川右岸の河岸段丘上に位置しており、縄文時代中期から晩期にかけての遺物が出土しています。中期の土器は終末期頃の深鉢形、後期のものは沈線文を施す土器が出土しています。中でも完形で出土した環状壺形土器は考古学的に価値が高く、町の有形文化財に指定されています。



このの
(神殿遺跡)
アツトシ
神殿遺跡からは主に東北地方に見られる独鈷石と呼ばれる用途不明遺物が出土しました。県内でも数点しか見つかっていません。



コードB遺跡
コードB遺跡は南部丘陵地に位置する旧石器時代から続く遺跡です。縄文時代早期の遺物が出土しているほか、後期の土器も出土しているこの場所は河岸段丘上に位置しています。水害対策になるなど、暮らしの場所として適した立地であったことが伺えます。




にしうら
(西浦遺跡)
はらいがわ
はらいがわ
西浦遺跡は祓川右岸の砂堆地に位置する縄文から中世の遺跡です。西浦遺跡がある砂堆は長年にかけて繰り返し堆積した土地のため、遺構がある層が何層にも分かれています。発掘調査では中世の遺物が出土する層よりもさらに深い層から無文の縄文土器が出土しました。器形から中期のものかと推定されています。



1	西浦遺跡
2	西出遺跡
3	粟垣内遺跡
4	粟垣外遺跡
5	坂本2号墳
6	管称崎遺跡
7	小迫間B地点
8	明星牛場A遺跡
9	明星牛場B遺跡
10	明星牛場C遺跡
11	御前坂遺跡
12	尾野遺跡
13	獅子山遺跡
14	須磨ヶ丘遺跡
15	シメ池遺跡
16	打越遺跡
17	新池東遺跡
18	長岡遺跡
19	北野遺跡
20	発シB遺跡
21	金剛坂遺跡
22	金剛坂里中遺跡
23	神殿遺跡
24	史跡斎宮跡
25	戸峯1号墳
26	丸山B遺跡
27	斎宮池19号墳
28	斎宮池遺跡
29	長谷町遺跡
30	コードA遺跡
31	コードB遺跡
32	カゴ山遺跡
33	六ツ葉広遺跡
34	上村池A遺跡
35	上村池B遺跡
36	城山遺跡

丘陵部	黒
高位段丘面	緑
中位段丘面	茶
自然堤防	黄
砂堆	灰

〈縄文時代の石器 一城山遺跡・戸峯古墳群出土一〉

縄文時代は旧石器時代に代わり食料の調達や調理方法、生活の習慣が大きく変わりました。狩猟がメインの生活から、住居を設けて定住するようになりました。

このような変化に伴い、使用される道具はより多様になりました。明和町内では城山遺跡や戸峯古墳群などの遺跡から様々な種類の石器が古くから発見されてきました。

これらの石器資料から当時の生活を知ることができます。



いしづら (城山遺跡)
石槌 (城山遺跡)
木の実を砕いたり、イモを擦る際に台として使用した道具。磨石とセットで使用しました。



くぼみいし (城山遺跡)
凹石 (城山遺跡)
固い木の実を割るための道具。長く使用することで中心がへこんだ形になっていきます。



ませいせきふ (戸峯古墳群)
磨製石斧 (戸峯古墳群)
木を切るのに使用した斧。切るといふより、何度も叩くことで木の繊維を断ち切るような使い方でした。



たたきいし (戸峯古墳群)
叩石 (戸峯古墳群)
物を加工する際に使用した道具。中央に使用痕が見られるほか、側面にもへこみが見られます。これは石器を作る際に使った痕跡です。



せきぼう (城山遺跡)
石棒 (城山遺跡)
男性器を模したもので、祭祀に使用されたとするのが通説となっています。城山遺跡からは4点の石棒が発見されており、装飾付きのものもあります。



せきぞく (戸峯古墳群)
石鏃 (戸峯古墳群)
矢の先に付けられた矢じり。時期や地域によって形は異なり、この石鏃は縄文時代晩期から弥生時代にみられます。

〈石鏃の製作技法 コドノB遺跡出土品から一〉

コドノB遺跡からは石鏃などの石器と、それらを製作した際にできる剥片が多く出土しました。この資料から当時の製作技法を知ることができます。割り出した剥片を片面から押圧剥離により形を整え、次に反対の面から押圧剥離により薄く仕上げていきます。



〈参考資料〉三重県「三重県史 資料編 考古1」2005

・明和町「明和町史 史料編第1巻―自然・考古―」2004

〈発行〉明和町富宮庫 文化観光課 (三重県多気郡明和町大字馬之上945番地) 初版 「先人が残した小さな足跡 明和町の旧石器・縄文時代」解説シート

電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133 E-mail: saikuato@town.mie-miwa.lg.jp 令和6年7月13日～8月25日

明和町文化財解説シート

先人が残した小さな足跡 ～縄文時代編～

〈明和町の縄文遺跡〉

縄文時代は旧石器時代に続く時代で、その始まりは土器の出現と弓矢の出現が基準となっています。現在本州で最も古い土器は約1万5000年前とされています。その後、紀元前3世紀頃までの約1万3000年続いた縄文時代は草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6つの時期に区分されています。

	1万5000年前	1万2000年前	7000年前	5000年前	4000年前	3000年前	2300年前	
旧石器時代	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	弥生時代	

明和町にある縄文時代の遺跡は草創期から晩期にかけて確認されています。草創期の遺物として土器は確認されていませんが、上村池A遺跡からこの時期の神子柴型石斧が出土しています。

土器は早期から確認されており、底が尖り、彫刻した木の棒を転がして文様を付ける押型文土器が主流となります。またこの時期の弓矢の矢じりである石鏃は魚形や五角形をしているのも特徴です。明和町ではコドノA遺跡・B遺跡などからこの時期の遺物が出土しています。

前期の遺跡については、現在まで断定的な遺物が町内では確認されていません。明和町に限らず三重県内の周辺地域でも前期については、ほとんど空白地帯といえる時代となります。

中期の遺跡として金剛坂遺跡があります。金剛坂遺跡からは中期の北白川C式土器がわずかですが出土しています。口縁部付近には北白川C式にみられる文様が確認できます。また金剛坂遺跡からは後期の土器も多く出土しています。



押型文土器 (コドノB遺跡出土)
魚形石鏃 (コドノB遺跡出土)
(押型文土器：三重県埋蔵文化財センター蔵)



〈金剛坂遺跡と北白川C式〉
金剛坂遺跡から出土した土器には口縁部に、隆起線で精円を作り、その中に刻線を施した文様が見られます。この文様は北白川C式の特徴です。

後期の遺物として、後葉の土器がコドノB遺跡から出土しています。コドノB遺跡出土土器には、無文の器面、口縁部には縁に沿って数条の沈線（しんせん）を巡らしている深鉢（ふかひし）があります。これは宮滝式（みやたきし）に分類されるものです。晩期の遺物に関しては土器は発見されていませんが、晩期から弥生時代にかけて見られる形状をした石鏃が数点出土しています。